

遺愛を卒業して、さらに輝く！！

今日は、遺愛では高校の一般入試が行われました。インフルエンザが流行し、こここの記録的な大雪による交通障害で、欠席者・遅刻者が多数出るのではと心配されましたが、予定者全員受験で入試が行われました。1月23日（金）が合格発表日です。ぜひ多くの皆さんが、遺愛に入学してほしいと願っています。

先日、14年前に遺愛を卒業したTさん（56回生）からメールがありました。彼女は卒業後、自治医科大学の看護学部に進学し看護師になり、青年海外協力隊としてソロモン諸島に派遣されました。戻ってきてから発展途上国の現状を世界に発信したいという思いが強くなり、神戸大学大学院修士課程で途上国の健康問題について研究を始め、昨年からは母校の自治医科大の教員となり、この4月からは京都大学大学院博士課程で途上国の保健問題について、仕事と両立させながら研究をすることになったそうです。

発展途上国の医療保健に関わりたいと思うようになったのは遺愛高校時代からだそうです。そして彼女にとって**遺愛は、初めて自分自身のアイデンティティーを受け入れてくれる場になった**そうです。彼女によると…幼少期から周囲の同世代の友人とは異なるユニークな部分があり、それが他人から変わっている、おかしい、というレッテルが貼られることが多々あり、そう周りから言われることが嫌でした。自分の本心を隠して生きるようになって、本当はこう思うが、友人がこう言っているから同じように合わせようと、3歳ころから中学3年生まで自然に考えるようになっていたそうです。しかし、中学校を卒業し遺愛に入学し高校で過ごす中で、自然にそのような思いは消えていきました。遺愛に入学し、しばらく過ごす中、周りの友人が他者の評価や意見を気にせず自己主張をしていて、とにかく個性に溢れていてとても驚いたことを覚えています。それがカルチャーショックでもあり、「この人たち面白い！」と初めて他人に興味を持つことができました。そして、彼女たちは私の意見を真剣に聞いてくれましたし、決して否定することはありませんでした。また、先生方も生徒の思いを真剣に受け止め決して否定はせずに受け入れてくれたように思います。高校時代は写真部で活動していましたが、顧問の先生が私たちの自主性を尊重しとにかく私に自由に活動させてくれたことを覚えています。そのような環境の中、私は水を得た魚のように自分のやりたいことを追求していたように思います。このような**3年間の高校時代を通し私は初めて自由を感じることができました**。遺愛を卒業し、14年経ちますが、今でも遺愛の同級生とは頻りに連絡をとっています。例えば私と写真部で活動していたYさんは、東京芸大の修士を修了した後、猛勉強し、2年前に国立大の医学部に入学し医師を目指し頑張っています。医学の勉強のみでなく、芸術家としての活動も並行しています。私たちのように、職業を一つに絞る必要はないと思います。看護師だから、芸術家だからと言って進むべき道は一つではないはずです。そして**学ぶことに遅いも早いもないと思います。いつからでもスタートすることができます**。…とメールに書いてありました。遺愛の在校生そして新しく遺愛に入学する皆さんに送ってくれた、輝く卒業生のメッセージです。

2018年2月16日（金）



入学試験が終了し、正門を出る受験生